

農学部

115年の伝統を踏まえ、食と生命の未来を拓く。

農学部では、生物資源の生産と活用に関する幅広い知識と技能を身につけ、科学的な思考に基づく課題設定力、国際感覚を備えた判断力とコミュニケーション力に加え、多様で広範な社会の課題解決に向けて、柔軟な思考力を持って自覚的に行動できる人材を養成しています。

学生は、英語による情報の収集力とコミュニケーション力(科学英語、実用英語、専門英語)、地域産業の理解(オリーブ学、希少糖学、うどん学)など幅広い教養を身につけるとともに、生物資源の生産と利用に関する基礎知識と技能を基盤として、2年生後期から下記の5コースに所属して各専門分野を体系的に学び、3年生後期から少人数教育による課題研究(卒業論文)に取り組んでいます。



応用生物科学科

■ 応用生命科学コース

近年の生命科学やバイオテクノロジー研究のめざましい発展により、生命現象や生物が作る物質の特性や機能を分子レベルで解明して利用することが可能になってきました。本コースでは微生物から高等動物までの様々な生命活動を分子・遺伝子レベルで明らかにする生命科学の基礎から、その成果を有用生物の開発や生物資源の有効利用へと役立てる応用技術まで幅広く学んでいます。

■ 生物生産科学コース

21世紀の豊かな社会の発展に求められる安全で安定的な食料供給と生活に潤いをもたらす園芸資源の生産開発をめざして、遺伝子資源の評価と品質改良、生産技術や生産物の流通システムなどを、フィールドからバイオまで体系的かつ実践的に学んでいます。

■ 環境科学コース

生物と環境の相互利用や環境中の物質循環について、生態系を構成する生物の特性に基づいて学んでいます。特に、香川県を含む瀬戸内圏に特徴的な里海と里山を主な対象として、フィールドおよび実験室・実験圃場で調査解析に取り組んでいます。また、化学的・生物学的手法をはじめとする様々な分野の手法と理論を活用し、ミクロからマクロなスケールにおける現象を時間的・空間的に関連づけて理解します。そして、環境や生物の利用・管理および保全に実践的に取り組む力を身につけます。

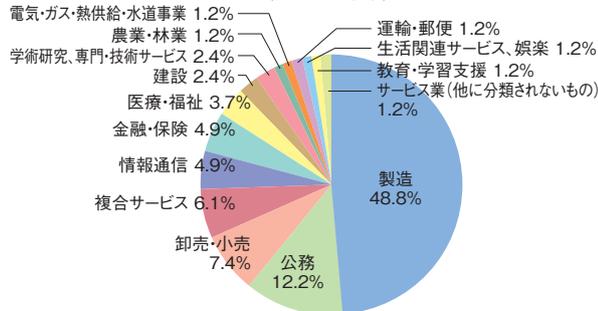
■ 生物資源環境化学コース

様々な生体の機能を物質レベルで理解し、多様な生物資源の効率的な利用法の開発に必要なとされる基盤的知識の習得を目標としています。特に、有用な機能を持つ生物由来の化学物質の探索法、それらの生成・作用メカニズムや分子構造を解明するための化学的手法、さらに再生可能資源としてのバイオマスの高度利用法について重点的に学んでいます。

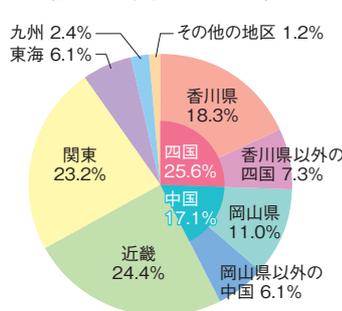
■ 食品科学コース

食品の持つ人間に対する種々の生体調節機能を化学的側面から理解し、高い嗜好性や機能性を維持した様々な食品の技術開発などを習得し、食品機能、安全性、嗜好性について体系的に、実践的に学んでいます。

業種別就職状況 (2019.3 卒業)



地域別就職状況 (2019.3 卒業 ※進学者を除く)



出身都道府県別卒業見込者数 (2021.3)

香川	37
兵庫	27
岡山	16
大阪	12
徳島	11
愛媛	10
京都	8
愛知	5
三重	4
滋賀	4
鳥取	4
広島	4
高知	4
和歌山	3
その他	14
計	163 (人)

主な就職先

大倉工業、オハヨー乳業、カバヤ食品、鎌田醤油、キューピー、JA西日本くみあい飼料、宗家源吉兆庵、名古屋製酪、日本食品、日本製粉、久光製薬、フジパングループ本社、ヤマザキビスケット、山田養蜂場、勇心酒造、ユニ・チャーム、三浦工業、神鋼物流、高知銀行、イカリ消毒、JA岡山西、全国農業協同組合連合会、岡山労働局、香川県庁、兵庫県庁 など